

市民と野党の共同で国政選挙3連勝

うち越さくら候補、上越市で自民候補に約5000票差

すさまじい選挙戦でしたね。しかし、終わってみれば、上越市では、3年前の参院選新潟選挙区、2年前の衆院選新潟6区での選挙戦に続いて、市民と野党の統一候補が国政選挙で3連勝という結果になりました。

上越市での最終得票は、市民と野党の共同のうち越さくら候補が4万5536票、塚田一郎候補が4万643票。県議選では与党勢力が野党勢力を上回っていましたが、ここで再び、野党勢力が盛り返し、再逆転しました。5000票弱の差とはいえ、全県での勝利に貴重な貢献ができました。

全国に目を向けると、選挙区選挙では、全国32の1人区のすべてで野党統一候補を実現し、10選挙区で大激戦を制して勝利しました。野党が、1人区で改選2議席から10議席へと躍進したことは、きわめて大きな成果です。複数区において日本共産党は、東京、京都、埼玉で議席を得ることができました。選挙区選挙で、全体として、現有の3議席を確保することがで



きたこととなります。また、比例区で日本共産党は4議席（改選議席5）を獲得し、なんとか踏ん張りました。

今回の選挙結果について、上野公悦日本共産党上越地区委員長は、「全体では自公、維新の改憲勢力による3分の2以上の議席獲得を阻止できた。こ

れで憲法改悪反対のたたかい、暮らしを守るたたかいに弾みがつく。ご支援いただいた皆さんに心からお礼申し上げます」との談話を発表しました。

上のイラストは20日、かに池交差点で「うち越さくら」への支持を訴えた人たちです。Vサインをして、記念撮影をしました。

参議院選挙結果（前回との比較）

区域	野党統一 / うち越さくら（前回森ゆうこ）			
	今回得票	得票率	前回得票	得票率
上越市	45,536	51.17%	50,546	53.40%
妙高市	10,267	47.29%	8,649	49.53%
糸魚川市	8,277	43.60%	11,562	45.17%
全県	521,717	50.49%	560,429	49.02%



【アカメガシワ】トウダイグサ科の落葉高木。漢字で「赤芽柏」と書きます。芽が出たばかりの頃は鮮紅色で、葉は柏のように大きいことから、この名前がついたようです。平地の荒地などに生えています。初夏に白っぽい花を咲かせます。花言葉は「繊細」「澄んだ心」。写真は7月上旬、吉川区で撮影。

議員定数、報酬は

現状通りの公算大

上越市議会の議員定数及び報酬等の在り方検討委員会が23日行われ、これまでの議論をまとめ、「議員定数、報酬は現状通り。政務活動費は会派分を減額し、個人分を増額する」方向で合意しました。正式には年度内に所定の手続きを経て決まります。

日本共産党議員団はこれらの問題について、議員団ニュースなどで見解を明らかにしてきました。

このうち市議会議員の定数については、「議員定数は市民の意見がいかに反映されるかが重要だ。その意味では定数削減は市民の声を削ることになる。一部に『財政が厳しい中で議員自らも痛みを覚悟しなければならぬ』との意見もあるがこれは全くの認識違いである」と訴えてきました。

また、議員報酬については、「議員活動・議会活動が市民から信頼を得ることが先である」として引き上げに反対、現状通いを主張してきました。

※移住インフルエンサー記事は次号

はしづめ法一の活動レポート

No.1919 2019.7.28
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら


春よ来い

第五六七回

未知の世界

どんな小さな空間であっても、未知の世界が広がっているものだ。そんなことを感じたことがありますか。

例えば、わが家の近くにあるミソソバの群落。縦二メートル、横三メートルほどの場所ですが、ミソソバの背丈が五〇センチほどに生長し、今、いろんな昆虫たちがここに集まってきています。

先日夕方、何となくしにミソソバのところまで行くと、パサツという音がしました。音がしたところをよく見ると、葉っぱの上で一センチ足らずの細長のバッタがいました。このバッタが飛び移ったときの音だったんですね。

バッタの体の色は緑色でミソソバの色とほとんど同じでした。同じ色の葉の上にとまっているのは、おそらく敵から自分の身を守るためでしょう。

バッタの次に見つけたのは黒っぽい昆虫です。これは偶然、私の目の前に飛んできたのです。一瞬、ハエかと思いました。ミソソバの葉の先端部はいくつかの葉が集まっていますが、その中央部に黒っぽいものが着陸して、正体がわかりました。ハエではなく害虫のママコガネだったのです。

着陸した姿を見て思ったのは、ここならスピードを出し過ぎても落ちることはない、右に転んでも左に転んでも大丈夫だということ。たまたま、葉が四枚集まったところに降りただけのことかも知れませんが、うまくいって降りました。

着陸に成功したママコガネは体長が一センチほど、お尻に動きはじめました。

初めて気づいたことですが、ママコガネの頭部には触角がありました。たぶんオスだと思つたのですが、手のひらを広げるような感じで左右二つの触角を動かしながら歩いています。メスを求めて探していたの

でしょうか、それとも進行先を探るだけだったのでしょうか。

どうあれ、触角の動きをよく観察していると、手のひらのような触角はたたむことができるし、頭部に収納もできるのです。よくできているものだと感心しました。

そうこうしているうちに、手前のミソソバにもママコガネがいることがわかりました。それも二匹、何となく落ち着かない雰囲気になかいました。

二匹は穴だらけの葉の上で、それぞれ正反対の方向を向いていたのですが、私から見て、右側にいたママコガネが左右の触角をグイッと突き出して、左回りで方向転換し始めました。どうやら、このママコガネはオスで、もう一匹のメスに接近しようとしていたようです。

オスは左右の前脚、中脚を盛んに動かして、方向転換を終えると、まず左前脚でもう一匹のママコガネの脇腹を押さえ、そして自分の体の半分くらいをのせたのです。下になったママコガネは全く抵抗することなく、口を動かして、葉を食べ続けていました。上にのったオスはしばらく、左右の前脚を葉っぱに叩きつけるようにしていましたが、左前脚を動かしたのを最後にぴたっと動かなくなりました。

オスが動き始めてからわずか一分間の出来事でしたが、ママコガネの交尾の一部始終を見たのは初めてでした。

翌日の朝、私はこの二匹がいたミソソバの葉のところへ行ったら驚きました。葉は表面も裏面もザラザラだったのです。さらに黒い糞もいくつかありました。ママコガネはミソソバの葉の上で食事をし、排せつもし、交尾もしていたのです。

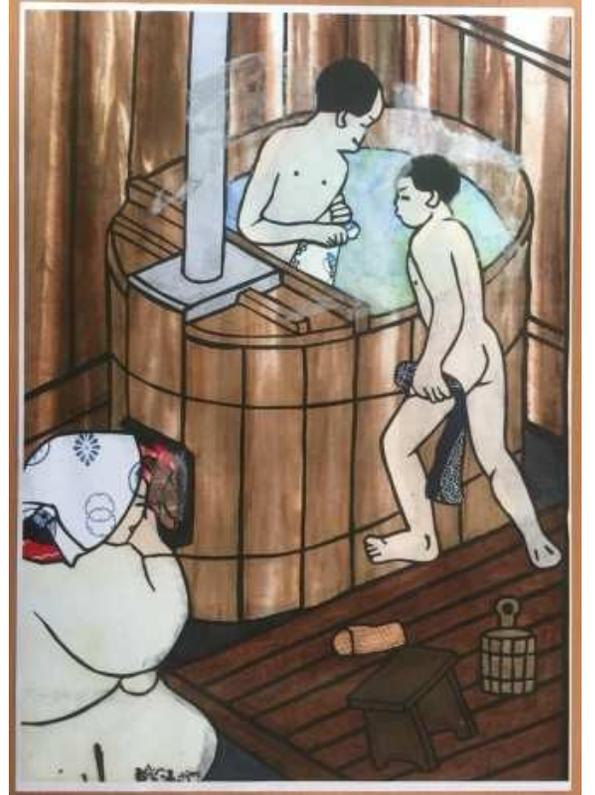
未知の世界は、まだ近くにいっぱいあります。少しずついい、もっと知りたい。

こんな風呂もありました

直江津は石橋の西山英夫さんの切り絵作品です。

わが家が尾神にあった頃、この絵と同じような風呂がありました。お風呂の入れる水は30メートルほど離れた「御前様井戸」から汲み、桶に入れて風呂場まで運びました。風呂を沸かす仕事は私や弟たちの仕事でした。けぶったかたです。

沸かしたお湯は大事にし、お湯の表面に垢(あか)が浮いていれば、それを洗面器ですくって捨ててから、入ったものです。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月17日(水)	7月24日(水)
上越南消防署	0.040	0.050
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.040
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.043
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.043	0.043

25回目の吉川テラス

20日の夜は25回目の吉川テラス(夕遊市)。ビールやお酒を飲みながら、クレアの歌と演奏、上教大のアカパラグループの歌を楽しみました。ふだん、なかなか会えない人とも一緒に飲むことができました。夏の風物詩として、すっかり定着しましたね。

